

平成 22 年度第 3 回ルール委員会議事録

平成 23 年 3 月 5、6 日 @新潟ビックスワン会議室
(財)日本セーリング連盟ルール委員会

(出席者)

委員：増田開、前園昇、大村雅一、佐藤百一、桜井常雄、山口泰正、秋元和子、松原次夫、川嶋秀則、
中野佐多子、田中正昭、渡辺勝、日下部大蔵、富田博司、木内誠、齋藤和久、高野由美子
(計 17 名)

顧問委員：周東英卿 (計 1 名)

支援委員：高田俊男 (計 1 名)

事務局員：富松潔、石川雅之、川田貴章 (計 3 名)

(欠席者)

委員：川北達也、岡嶋佳治、岡部幸司、黒川重男、柴沼克己、佐藤厚子、小玉淳一、榛葉克也、
西田昭二、青山篤、前田彰一、村松哲太郎、朝田耕平、名方俊介 (計 14 名)

顧問委員：米澤一、石井正行、大谷たかお (計 3 名)

支援委員：種田一郎 (計 1 名)

事務局員：守屋武彦、内田みち子、世良杏奈 (計 3 名)

1.<審議>IJ/IU 推薦候補選定基準改定 大村副委員長(WG 長)

今回の見直しの背景、問題点などについて資料に基づいて説明があり、改定の目的、骨子説明の後、改定案の提案があった。候補者のスキルの評価方法などについて意見交換があった後、審議の結果、改定案が承認された。

2.<審議>2011ISAF 規定改定日本語訳 岡部小委員長 (代 増田委員長)

ISAF規定改定の内容および日本語訳についての説明の後、いくつかの日本語訳案について委員からの意見が出された後、提案内容の一部を変更し、承認された。また日本語訳のうち、「アンチドーピング」がJADAにて「ドーピング防止」となっていることから、RRSも併せて「ドーピング防止」に変更することとした。この結果は、RRS日本語訳については正誤表として、ISAF規定の日本語訳とともにJSAF_HPに公示することとした。

3.<協議>JSAF規程6改定 増田委員長

2011ISAF広告規定改定に伴い、JSAF規程6の改定が必要であることが説明された。

次回ルール委員会とJSAF理事会の日程が合わないため、今後メール等によりルール委員会内での協議・承認とし、JSAF理事会に諮ることで合意された。

4.<審議>規則 61.1(a)(3)日本語訳修正 前園副委員長

現行の日本語訳は、原文の意味を正確に表現できていないことが明らかとなったため、修正案が提案された。原文の意味の再確認のための意見が出された後、修正案が承認された。この修正案はRRS正誤表として速やかに公示することとした。

5.<審議>NJ/NU 規程事務取扱要綱改定 岡部小委員長 (代 前園副委員長)

改定理由、改定内容など改定案が、資料に基づいて説明された。改定案については委員により検討され、数カ所、語句の修正が取り入れられた。講師の謝金の扱い、NROとの整合については、今後の検討事項となった。以上の協議の後、修正の上原案が承認された。

6.<協議>NJ/NU規程細則改定 岡部小委員長 (代 前園副委員長)

各地で開催された実施報告に基づくB級ジャッジ認定講習、試験収支の実態と対策について説明があった。受験料のばらつきや講師謝金の適正化を行う必要があることが指摘された。その結果、受験者6人以上、近隣の講師、安価な会場であれば、収支が成立することが説明された。

但し、現実的には費用がやむを得ずかさむことも想定されるため、さらに検討を進めて、夏頃までにA級ジャッジ、アンパイアの認定料等も含めたルール委員会としての案をまとめ、2月に予定されているレース・ルール合同委員会とで協議するスケジュールで検討を進めることとなった。

7.<報告>上告2件 増田委員長

上告 2010-01 の報告、上告 2010-02 についての経緯が説明された。今後、最高審判委員会による裁決は、J-Sailing のほか最高審判委員会のウェブサイトを作って公開してはどうか？上告を ISAF に提出して、ケースブックに載せてもらうよう動いてはどうか？などの意見が出された。これらは次年度の課題として取り組んで行くこととした。

8.<報告>RRS サブミッション審議結果 前園副委員長

先に開催された ISAF 総会での表記審議にて採択されたサブミッションのうち、RRS 本則のみが報告された。これらは次回 RRS からは盛り込まれてくるであろうとの見解が示された。サブミッションは、欧米からのものが殆どである状況ゆえ、アジアの MNA からのサブミッションをより積極的に出していくべきとの提言があった。

9.<報告>C 節 WP による新 C 節課題 前園副委員長

RRS の C 節は、RRS2009-2012 にて大幅改定となったが、未だいくつかの課題があり、それらをまとめた資料についての説明があった。これらは、2013 年に改定される RRS への反映が予想されるため、今後注視していくとともに、こういった課題認識を、JSAF からも発信していきたいとの希望が述べられた。

10.<報告>アジア大会参加報告 富松事務局員

アジア大会の参加報告がされた。主な内容は以下の通り。

- ・ 13 クラス 100 艇。5 海面、それぞれにジュリーボート 2 艇の配置。
- ・ IJIU は 18 人、日本からは柴沼理事 (IJ)、秋元委員 (IJ)、富松事務局員 (NJ) の 3 人が参加。
- ・ 日本では馴染みの少ないテクニカルデリゲートが存在しており、それは、運営全体の統括、規則通りの運営ができていくかどうかの監視、ISAF への窓口といった役割を演じていた。
- ・ Discretionary penalty については、その一貫した運用のための大会ガイドラインが作成され、それは公式掲示板に掲示され、選手にも公開されていた。
- ・ 「ジュリーとのディスカッションを歓迎する。リクエストしてくれ」とのインフォメーションを選手に出していた。

11.<報告>今年度小委員会活動報告

11.1 ジャッジ小委員会 山口ジャッジ小委員長

- ・ A 級ジャッジ資格未充足者について : 資格充足意志の有無の確認を促進すべく、指名されていた担当者を再度確認した。
- ・ ジャッジセミナーについて : 収支の全体報告がされたが、開催地毎の収支を明確化するため、各地で講師をした委員が、各開催地での収支を年度内に確認することとなった。
- ・ プロテストフォームのチェックボックスについて : 現在の標準フォームはチェックボックスが文末側にあり、日本語にすると間違った箇所をチェックしてしまう可能性があるため、チェックボックスを文頭側に変更することとした。これは速やかに修正を行い、JSAF_HP 上に掲載中のフォームを差し替えることとした。

11.2 IJ/IU 育成小委員会 増田委員長

- ・ 国際大会への日本人 IJ/IU 候補者の渡航支援 : 今年度は4大会がそれに該当した。来年度は本事業の幅広い告知の要否と方法についての具体化が課題との提言があった。
- ・ 国内の国際大会への海外 IJ 招聘/日本人 IJ 候補者の派遣 : 今年度は2大会がそれに該当した。
- ・ その他、海外大会、ISAF 情報として、IJ/IU からのレガッタレポートは9通。ISAF 総会参加報告等が収集された。
- ・ 各地域での国内大会へのジャッジ派遣 : 今年度は4大会がそれに該当した。
- ・ 来年度は、ISAF ジャッジセミナーの日本開催、IJIU エクスチェンジプログラムなどを予算化し、実現していく旨の計画が述べられた。また、海外 IJ 招聘による 42 条クリニック構想について、オリンピックウィークに招聘したジャッジに42条のクリニックをして頂くなど、今後具体化検討していく旨の報告が

された。

11.3 アンパイア小委員会 田中小委員長

- ・ アンパイア講習会実績 : 今年度は3回実施。
- ・ コール・ブックおよびマニュアル類の翻訳・発行 : 今年度は、MR/TR の各コール・ブック(サブリメント含む)、MR/TR マニュアル、MR ラピッド・レスポンスの翻訳・発刊を実施。
- ・ MR ルール研修用 DVD を発刊。
- ・ 海外 IU 招聘/海外 MR/TR への派遣 : 海外 IU 招聘は1大会、海外 MR/TR 派遣は4大会の実績があった。
- ・ 来年度は、国内大会へのアンパイア派遣、TRワールドへの派遣、NU 認定講習会を1または2回実施、アンパイアの定期勉強会の実施、ラピッド・レスポンスやルール解釈の情報提供などを計画中有る旨の報告があった。

11.4 規程小委員会 岡部小委員長 (代 前園副委員長)

- ・ 規定類の日本語訳公示 : アデンダム Q、ISAF 規定 2011 の日本語訳と公示を行った。
- ・ JSAF 規程 6 改定 : ISAF 規定改定に伴い、本規程も改定。本委員会での協議事項。
- ・ NJ/NU 規程細則および事務取扱い要綱改定 : 本委員会での協議および審議事項。

11.5 外洋小委員会 大村副委員長

- ・ 外洋レース規則(2009年策定)およびRRS42.3(h)の普及 : 今年度は、8大会で適用された。
- ・ 外洋艇推進 Gr との連携 : 今年度は、JSAF 外洋会議、外洋合同会議が開催され、外洋関係者との情報共有に努めた。
- ・ 外洋関係ジャッジの発掘・育成を、各外洋加盟団体に依頼中である旨の報告がされた。

11.6 普及小委員会 前園副委員長

- ・ 選手・指導者向けルール講習会実績 : 開催回数 18 回、参加人数 741 人と、それぞれ前年度比 +50%、+16%と、年々活発化。内容は概ね好評。講習料も妥当と考える。課題は、本講習会の認知が不十分であること、講師派遣コスト削減のため、講師候補者の増強、そのための講習マテリアルの作成スケジュールの早期化などが挙げられた。

12. その他

- ・ Q&A、艇種別 42 条よくある違反の日本語訳が配布・紹介された。これらは、訳の確認を経た後、速やかに Web アップしていく。
- ・ 付則 LE、BB 等ルール・ブックにない付則や、Classification Q&A の日本語訳についての担当について質問があった。これは、規程小委員会の担当と定義されており、来年度には、使用頻度と重要性を鑑みた上で優先順位を付けて取り組んでいく。また、Classification Q&A の日本語訳については、高田支援委員に支援頂くこととなった。
- ・ 来年度のルール委員会のうち、おそらく 12 月の 1 回は、レース委員会との合同会議としたい旨の提言があった。レース委員会と整合を取るべき事項を、そこで協議していくことが狙い。
- ・ 今年度末で、現在の委員は任期満了となる。来年度は新しく委嘱された委員にて、6 月に第 1 回ルール委員会の開催を予定している旨の連絡があった。

以上